

理事長就任のご挨拶

心から尊敬をし、私淑申し上げておりました大鳥蘭三郎先生が、理事長をご勇退なさるといふ堅いご意志をもらされたので、再三にわたりご留任をお願い申し上げたのでございます。しかし、ご勇退の決意は磐石のごとくで、どうしてもご翻意がかないませんでした。

大鳥先生のご勇退ご決意までの経過をもら受けたまわりますと、先生のご決意に対し反対し、これ以上先生を煩わしますことは、却って先生の心身にご無理をかけるという不本意なことになるものと思ひ到りました。

因らざるも、平成三年六月一日京都市における第九十二回日本医史学会総会において、本会の理事長に推挙され、会員一同のご賛意により就任させていただくこととなりました。故小川鼎三先生、それに大鳥蘭三郎先生という学識、人格ともに卓越された方々のあとを継承することは識見に欠け、中央の事情に疎く遠隔の地に任んでいます私にとりまして、責任の重さは巨岩を背負う思いをいたしております。

日本医学会の第一分科会という伝統ある本学会は学殖豊かな多士済々でございますが、それだけに、今後一つづつ乗り越えてゆかねばならぬ多くの課題のあることもようやく分ってまいりました。これらも会員の方々の学殖と豊かな人生経験、人脈、そして心あたたかいお智慧のご支援によって、地道に、誠意をもって対処し、打開するように取り組んでまいりたいと思ひます。

学会のあり方、運営その他諸々のことについてのご意見がおありのことと存じますので、忌憚なくお教示いただければ幸いです。国内外の学際的な取り組みをはじめ、本学会は自然科学と人文科学の接点に位置する日本医学会の分科

会のなかで、最もユニークな学会でございますので、今後とも本学会の発展のため、学会員の皆様からの心あたたかいご指導により、更に素晴らしい學術団体として成長させていただきたいと思っております。

理事長就任にあたり、前理事長大鳥先生にお示し下さいましたと変らぬご支援、ご好意により、本学会がますます発展いたしますよう、ご協力をたまわりますようお願い申し上げます、就任のご挨拶にかえさしていただきたいと存じます。

蒲原 宏